

令和6年6月12日

障害者就業・生活支援センター 各位

特定非営利活動法人
全国就業支援ネットワーク
代表理事 藤尾 健二

『ナカボツ基幹型モデル的取組調査事業（仮称）』
モデル的取組エントリーについて（ご協力をお願い）

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。日頃は当ネットワークの活動に格別のご理解、ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、当ネットワークは、令和4年度から5年度にかけて、厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部障害福祉課より『定着支援地域連携モデルに係る調査事業』を受託いたしました。

令和4年度の調査事業では、全国10箇所の障害者就業・生活支援センターにご協力をいただき、今後、障害者就業・生活支援センターが、地域の就労支援ネットワークの中で「基幹型」の機能を担っていく際に期待される以下の取組について、多様なモデル事例を示すことができました。

- ① 就労定着支援事業所その他の就労系障害福祉サービス事業所に対するスーパーバイズに係る取組
- ② 困難事例に対する個別支援の取組
- ③ 地域の就労支援機関との連携に係る取組

令和5年度の調査事業では、このようなモデル的取組をこれから実施していこうと考えておられた全国6箇所の障害者就業・生活支援センターにおいて、上記3点の取組のいずれかを実際に実施していただき、その取組過程における課題や地域特有の実情について調査することで、「基幹型」の機能・役割を再整理し、定着支援に携わる関係者と共有することができました。

当ネットワークでは、この2年間の調査事業において得られた成果を基に、今年度は同様の内容の調査事業を、当ネットワーク独自の事業として実施することといたしました。

つきましては、このモデル的取組の実施に、令和6年8月～令和7年2月までの約7ヶ月間にわたってご協力いただけるセンターを、下記の通り募集いたします。

・応援センターの実践は、ナカポツが地域の中でどのような立ち位置で、どのようなスタンスで、当事者・企業・支援者・関係者と共に実践して行けば良いかを整理する機会を与えてくれました。

・今回モデル的取組を通じて、今まで頭の中で何となく出来たらいいなと思っていた、ふんわりとイメージしてきた支援策が、応援センターとの出会いによって、一気に加速して具体的な方法や実施にあたっての見通しに、気が付くとふんわりが、くっきりと変わり、日に日にはっきりとした形が見えてきました。

・新しい取り組みには大きなエネルギーを必要とするので、応援センターの助言は心強かったです。実際に目標を達成できている圏域と関わったことで、あきらめずに行動する動機付けとなりました。

昨年度ご協力いただいたセンターからは、このような声をいただいております。今年度も同じように、基幹型としてのモデル的取組と一緒に取り組んでいただけるセンターのご応募をお待ちしております。ご不明な点、より詳しくお知りになりたい点などございましたら、下記事務局まで何なりとお問い合わせください。

このモデル的取組実施にご協力いただくことが、それぞれの地域における就労支援ネットワークの強化、ひいては、地域の定着支援対応力の一層の向上に資することを、心より願い、期待しております。

ご多忙の折、恐縮ですが、ご協力のほど、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

敬具

記

全国 337 箇所の障害者就業・生活支援センターのうち、これまでにモデル的取組実施にご協力いただいた 16 センターを除く 321 センターの中から、今年度のモデル的取組実施にご協力いただけるセンターを公募いたします。参加を希望されるセンターは、添付の事業概要を参照のうえ、エントリーシートを、7月8日までに提出してください。

ご応募いただいたセンターの中から、地域性および取組実施を応援していただくセンター（これまでにご協力いただいた 16 センターに依頼）とのマッチング等を勘案して、4～6 箇所の実施センターを選出いたします。

○ エントリーシートのご提出・お問合せ先

全国就業支援ネットワーク事務局（担当：小澤）

E-mail ozawa@sien-nw.jp TEL 06-4303-3111

○ 添付資料

- ・『ナカポツ基幹型モデル的取組調査事業（仮称）』事業概要
- ・『ナカポツ基幹型モデル的取組調査事業（仮称）』エントリーシート

以上